

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 7 日

1. 職名・氏名 准教授・山下知晃

2. 学位 学位 博士、専門分野 会計学、授与機関 京都大学、授与年 2017

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記原理（4 単位）、主たる配当年次：1 年生
②内容・ねらい 本講義では、簿記の初学者を対象に簿記の基本的な仕組みや各種重要な取引の処理方法などを学習する。受講生が本講義を受講することで、簿記の入門的な知識から日商簿記 3 級程度の知識を身につけることができるように講義する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 受講生が知識を定着させることができるようにするための工夫として、毎回講義後のアンケートを実施した。また、今年度も Google form や Slido などのツールを利用し、受講生からの感想や質問を受ける仕組みを設け、それらに対する感想や質問に対するフィードバックを講義の最初に行うよう工夫した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記論 I（2 単位）、主たる配当年次：2 年生
②内容・ねらい 本講義では、簿記原理の内容(日商簿記 3 級レベルの内容)は理解していることを前提に日商簿記 2 級レベルの内容について学習を行う。本講義は実質的に簿記原理と連続した内容となっており、株式会社簿記の前半部を扱うことになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 受講生が知識を定着させることができるようにするための工夫として、毎回の講義アンケートを実施した。また、Google form や Slido を通じて、受講生が質問できるようにし、その質問に対するフィードバックを長くなりすぎないようにしながら講義の最初に行うよう工夫した。さらに、今年度は北陸財務局の協力のもと、公認会計士制度について実務家講義の実施を行った。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 簿記論 II（2 単位）、主たる配当年次：2 年生

②内容・ねらい

本講義では、簿記原理の内容(日商簿記3級レベルの内容)は理解していることを前提に日商簿記2級レベルの内容について学習を行う。本講義は実質的に簿記原理と連続した内容となっており、株式会社簿記の後半部を扱うことになる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

受講生が知識を定着させることができるようにするための工夫として、毎回講義後のアンケートを実施した。他の講義科目と同じように、講義冒頭に感想や質問について必ずフィードバックを行うように工夫をした。また、講義では受講生の応用力を高めるために、できる限り演習問題を解く時間を設けるようにした。

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

演習Ⅰ(4単位)、主たる配当年次:3年生

② 内容・ねらい

本演習では会計学と財務諸表分析の基本的なテキストを用いて、財務会計論(財務諸表論)の基礎的な知識と財務諸表分析の基本的なスキルを学習する。さらに、修得した知識やスキルを活用してビジネス・リサーチを行うトレーニングを行う。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

今年度は受講生が少人数であることの利点を生かして、ゼミでは参加者全員が発言をできるように工夫を行った。また、現在卒業研究に向けて進めている、研究の準備では受講生がやりたいことを尊重しつつ、財務分析の基本的な力を身に付けられるように、毎回課題を課し、フィードバックを行った。

(2)その他の教育活動

内容

共通教育科目『経営学』(担当:簿記論パート1コマ)

共通教育科目『経営学』のとりまとめを木野教授・北野助教とともに行った。

※:また京都大学経営管理大学院にて『企業分析』の非常勤講師を務めた。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書
【 本】
②学術論文（査読あり） Kusano, M., and Yamashita, T. Does Recognizing Operating Leases Influence Loan Spreads? Evidence from Japan, Journal of International Accounting Research, Forthcoming, 2025. (DOI: https://doi.org/10.2308/JIAR-2024-015) ※現在公刊準備中（オンラインでは公開済み）
【 1 本】
③ その他論文（査読なし） 山下知晃「日本企業の公募増資と会計情報の質」『証券経済研究』，第 132 号，197-212 頁，2025 年.
【 1 本】
④ 学会発表等 山下知晃、「Measure” Wars? An Empirical Examination of Cash flow Predictability of Accounting Earnings and Cash flows in Japan」、国際会計研究学会第 42 回研究大会、兵庫、2025 年 8 月 31 日.
【 1 件】
⑤ その他の公表実績（セミナー等での報告） 山下知晃、「日本企業の公募増資と会計情報の質」資本市場・企業統治研究会、オンライン、2025 年 9 月 4 日.
【 1 件】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
（外部） 【研究代表者】 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「条件付保守主義によって生じるコストの実証的研究」、 <u>新規</u> 。 【研究分担者】 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「のれんの会計方法に係る当事者の認知についての理論および実態調査研究」)、2022 年 4 月より継続中。 （内部）【研究代表者】 令和 7 年度戦略的課題研究推進支援
(3)特許等取得
(4)学会活動等
・日本経済会計学会ワークショップ準備委員長（2026 年 2 月 23 日、AOSSA にて実施予定）、

5. 地域・社会貢献活動

公開講座・会計学入門講座 2025 講師（一般向け 1 回）.
 福井商業高校・開放講義（7 月 22 日実施）
 足羽高校・探求学習アドバイザー（講義 1 回を実施）（9 月 29 日実施）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

学生支援委員会
 経済学部予算委員会および経済学部研究会の運営

(3)学内行事への参加

前期後期経済学部オリエンテーション（学生支援委員）

(4)その他、自発的活動など

・ 高校訪問（武生高校、7 月 11 日実施）